

叙任

○明治十七年二月六日
 太政官大書記官兼内務省大書記官正六位 清浦 奎吾
 兼任參事院員外議官兼内務省大書記官如故
 ○明治十七年二月七日
 任海軍大軍醫 三田村忠國

時事新報

英語英文ヲ知ラザレバ貿易ヲ營ムコト能ハズ

英語學ヲベシ英文學ハザル可ラズトノコトハ我輩平生ノ持論、紙上ニモ度々開陳シテ餘ス所無ケレバ今新シク之ヲ嘆々スルハ少シク驚愕ノ如ク思ハレ自カテ新説ナリト謂ルベキノ勇氣ナキ心地スレバ如何セン此ノ非新説舊論ガ日本社會ノ實際上ニテハ甚ダ新奇ニシテ世人未ダ英文英語ノ必要ヲ知悉セザルノ多數ナルヲ、夫レ我國ハ貿易ノ國タルベシ我人民ハ貿易ノ人民タラザル可ラズ區々タル小天地ニ盤居シテ大ニ世界ノ市場ニ縱橫スルノ能力ナキ者ハ向來之ト與ニ日本國ノ維持法ヲ談スルニ足ラズ唯期スル所ハ他クマデ進マテ富國ノ道ヲ求メ此道ニ由テ以テ貿易ヲ世界ニ争フニ在ルノミナレバ斯ル場合ニ臨ンデ日本國ノ人民ガ商業世界ノ國語トモ云ハルベキ英文英語ニ通ゼズンバ活潑轉ノ取引ニ一々通辨官ノ口ヲ假リ翻譯者ノ手ヲ煩ハシ運々緩慢急ニ應スルニ足ラザルコト恰モ電信ノ力ヲ利用セズシテ千百里ノ往復ニ早飛脚ヲ立ルト同一ノ誤ナルベシ迂濶ノ迂亦甚クカク又日本國ノ人民ガ假ヒ難ク貿易ノ中央市場ニ出デザラントスルニモセヨ自守國內ノ鐵道東西南北ニ蛛網ノ線路ヲ作りナハ外人ノ積々押寄セ來ルニキハ猶堤防決シテ水ノ下流スル勢ヒノ如ク到底際限スル所ナカラシ然ルニ一方ノ之ニ應接スベキ日本人民ハ依然トシテ日本語日本文ノ外ニ一ノ所得モナク貿易ノ取引上ニ迫リソレ通辨官ヲ呼ベ翻譯者ヲ招ケト云フ惶遽至極ノ腋下ニ西洋ノ人ハ早ク既ニ日本ノ富ヲ擷ミ去ルガ如キ奇談又慘狀ハ必ズモ遠キ數十年ノ後ニアラザル可シ我輩ハ今日ノ豫言イツシカ他無ノ實際的中センコト恐ル、モノナレバ此後百ノ尙未ダ中ラザル今ノ時ニ當テ日本人民ガ充分ニ英文英語ヲ學ビ得テ急ニ騰テ失色スルナキヲ勉メント實ニ國ノ爲ニ切望シテ巴マザル所ナリ然ルニ世上ニハ往々我輩ト心事ヲ殊ニスル者アリ云ク日本國ニハ洋學ノ流行至レリ盡セリ安心ニ堪ヘザルノミナラズ寧ろ流行ニ過テ矯正ヲ加ヘザル可ラズト我輩ノ熱望ヲ却却スルノ情ナキコト非ズ遺憾ナリト云フ可シ抑モ此流ノ人ハ何チ實証トシテ洋學ノ流行ニ過分ナリト云フカ夫レ日本國中ニテ英書ヲ讀ミ得ル者幾何カアル、英學ヲ教フル官公私立ノ學問所幾何カアル、五海ノ人民ニテ外國貿易ニ直接ニナガラ英書ヲ知ル者幾何カアル、社會ノ上流ニ立テ勢力ヲ占メタル人ニテ英學ノ心得アル者幾何カアル、又英學ヲ知ラズトモ英學ヲ知ラザル可カラザルノ必要文クテ知ル者幾何カアル、之ヲ總人民ニ比較スレバ九牛ノ一毛ニシテ實ニ寡々ノ極ナリト云フベシ然ルニ斯ル實

電報

証アルニモ拘ハラズシテ洋學ノ流行過分ナリト云フニ至テハ豈ニ之ヲ誤レリト云ハザルヲ得ンヤ左レバ日本國ノ洋學ハ盛ンナラズ就中日本國ノ英文英語ハ又最モ盛ナラズ若シ此儘ニテ等閑ニ打去リナハ他日日本國ガ貿易市場ノ中心ト爲リ外人ノ續々トシテ香至スルノ時期ニ切迫シ獨リ我國民ガ商業世界ノ國語タル英語英文ノ心得ナクシテハ猶早飛脚ニテ電信ノ用ヲ達セントスルガ如ク到底活潑ナル貿易ニ應スル能ハザルヤ必セリ故ニ日本人ハ英文學アベシ英語學ハザル可ラズ若シ尙勤學セバ他日ノ大不便利所ニ到來スベシ何トナレバ光陰ハ懶惰者ヲ待ツ者ニ非ザレバナリ

前條ノ理由ナルガ故ニ英語英文ノ必要ハ我日本人ニ取リテ殆ント飲食ヨリモ切ナル者ト云フベシ左レバ世上ノ有志者ハ自カラモ之ヲ學ビ他人ニモ之ヲ勸メ若シ英語英文ノ教師ナクンバ之ヲ招聘ス可シ學校ナクンバ之ヲ設立ス可シ些少ノ費用愛シムニ足ラズ幾多ノ辛苦堪ヘ忍フ可キナリ又三府五港ニ在ル所ノ人々ニ至テハ日常外人ニ接換應對シ又ハ買賣取引スルノ便利モ多キガ故ニ此便利ハ乃チ英語英文ヲ熟習スルノ便利ナレバ朝夕少シク心ヲ用フ之ヲ利スルコト智者ノ事ナレ外國ノ商人等ハ我國市場ニ寄留シテ日本語ニ通スル者ナキコト非ズ然ルニ我士人商人ハ進テ彼ノ國語ヲ學バントスル者甚ク少ナキハ之ヲ評シテ無勇ナリト云ハザルヲ得ズ昔ノ漢學者ハ漢人ヲ見ズシテ能ク漢文ヲ綴リタリ今ノ士人商人ハ英米人ニ直接ニテ英米ノ文ヲ知ラズ古人ニ對シテ愧ヅ可キコト非ズヤ苟モ之ヲ學バント欲スレバ其方便ハ甚ク多クシテ昔ノ漢學執行ノ比ニ非ズ語ニ云ク不財財不得ト我輩ハ今ノ有志者ニ向テ唯進ニテ求メテ告スル者ナリ

○二月六日龍動發 英國々會ハ勸使臨場の上開會セリ其時英女皇の勸諭を傳へたり其會の條項に曰く馬島事件に關しては佛蘭西共和國の大統領と談判往復の未従前より英佛間に成立せる親密の交誼を全ふするを得たり又日本國との條約改正の殆んど完結したり朝鮮との條約之既に調印済となれり又英國が埃及に對する政略の畫の如く之と變せざる可しと又勸諭には本會議下附する重なる議案を陳示したるの其中ニ參政權擴張、地方政務改良、龍動府廳改革等の議案あり○埃及の將軍ベーガル、パシヤは敵の爲めトーカイの近傍にて充分擊破られ死傷二千人に及び候てベーガル氏はスツキム引違せり

雜報

○神馬 幕上には一昨七日皇大神宮御料として御馬一疋と幸進あらせられたり

○離宴 北白川宮は昨日午後より此度歐洲行の大山陸軍卿三浦中將を始め隨行員一同を自邸へ招待され離宴を開かれたり

○井上參議 兼て伊豫連禰の温泉に入浴中ある同參議と來る十四十五兩日の内に横濱比歐洲行を見送るの積りなり

○學事巡視 九鬼文部少輔は佐賀向縣下へ出張を仰付けたり

○女子參内 伊豫參議の令嬢皇居へ參内して皇后宮より謁房、山岡鐵太郎の兩氏を始めまで七十餘名上野の靈園へ參たるよし

○露帝落馬の次第 露國皇帝實際落馬して爲に龍體を損したるが猶一月五日露京、聖彼得堡皆虛無党が過多も露帝と害ししと該府にて専ら風評せる由

○フランケット公使 度々本報アランケット氏出發のことに關シプレスを開するお同氏は一日伊國ヴェニス府を出發すべし

○出京并歸任 奈良原靜岡縣令し人見美城縣令は御用濟昨日出長義の岡氏ハ此程海軍思給事

○黒田砲兵大佐 東京砲兵工廠用に付大坂工兵廠へ出張し居わ佐と同船にて歸京したり

○佐藤進氏 陸軍軍醫監佐藤進授お任せられ橋本同教授の歐洲醫院に於て第八期生徒の外科師たるよし

○中川元氏 文部一等風中川元られ更に文部省御用掛被仰付尙は文部省秘書官被仰付被仰付る、由

○留學 前號に文學士井上哲次國へ留學を命せられたる事を記氏も法學修業の爲め同機留學を被仰する由

○清佛領事 長崎港清領事余年八月申歸國せしお付不在中は此程余瑞氏歸港したるお付其事ニエスランは此程休暇を得ては同國領事館領事セルウハン職官執れも該國公使より外務省へ金玉均 目下我國來遊中な頃歸國するに付一昨日築地小田